

吉田 千亜さん 講演会

原発事故 語りにくさを超えるために

関東子ども健康調査支援基金



日時 2021年12月5日(日)
14:00 - 15:30

場所 Zoom (オンライン開催のみ)

定員 90名 会員限定・要申込

参加費 無料 寄付歓迎

スマホからの
お申込は
こちら→



詳しくは
ホームページを
ご覧ください

申込フォーム <https://bit.ly/3tztV5y>

問合せ先 事務局 常総生協内 (担当 木本)

Mail ibachiba@kantokodomo.info

Tel 0297-38-8539 Fax 0297-45-6675

お申込み時に、氏名・メールアドレス・電話番号(常総生協・よつ葉生協の組合員の方はその旨もあわせて)お知らせください。後日、Zoomに参加するURLをメールでお知らせしますので、ibachiba@kantokodomo.info が受信できるようにしてください。11月中旬に連絡がない場合は事務局までお問い合わせください。

原発事故から10年・・・

わたし達「関東子ども健康調査支援基金」は関東の汚染地域で甲状腺検診を行ってきました。

当初、「周りの人に知られたくないので、名前を呼ばないでほしい」と言われたり、10年経った今は「まだ気にしているの?と言われるので話せる場がない」と聞きます。

原発事故の健康影響は以前も今も「語りにくさ」と共にある問題です。

<吉田千亜さんより>

福島県だけの問題にされている原発事故について、データとともに、これまで伺ったお話を交えて、お伝えします。

那須の取材でも感じているのは、原発事故について率直に語ることの難しさです。その原因と、それを変えるために何が必要か、一緒に考えていただけたらと思います。



吉田 千亜 (よしだ ちあ)

大学卒業後、出版社勤務を経て、フリーライター。原発事故後、原発事故被害者・避難者の取材を続けている。

著書に『ルポ母子避難』(岩波新書・2016年)、『その後の福島』(人文書院・2018年)、『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』(岩波書店・2020年)、共著に『原発避難白書』(人文書院・2015年)がある。『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』では、日隅一雄・情報流通促進賞2020大賞、第42回講談社本田靖春ノンフィクション賞、第63回日本ジャーナリスト会議(JCJ賞)を受賞。2021年3月より月刊誌『岩波 世界』にて、栃木県那須町のルポ「県境の町」を連載中。